

# ていねいな暮らしのあつたころ

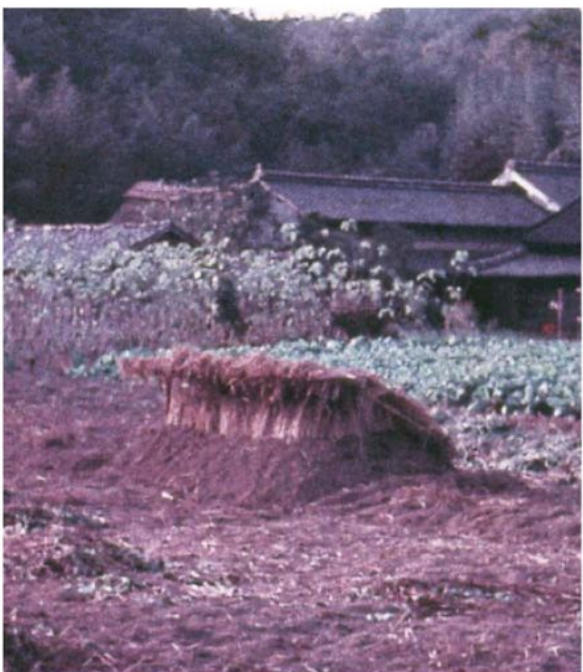
## 佐野彦の撮った伊深の里山



「コウドバでイモコデをする様子」 (昭和40年10月23日撮影)

### 「イモコデ」

秋、農作物の収穫が始まります。右の写真は、コウドバで里芋を洗っている様子で「イモコデ」と言います。おけに芋を入れ、水を張って細長い板でもみ洗いをします。水を換えながら何回か繰り返すと、芋についていた泥がとれます。それをザルに広げて、日陰に干しておく、皮むきがらくになったそうです。コウドバとは、山から田に水



「芋を囲う(芋の貯蔵)」 (昭和38年10月22日撮影)

を引くための水路にある洗い場のことです。個人のものもあれば、近所の共同で使っているものもありました。土のついた野菜や鍬などの農具、農作業のあとの泥のついた足もとを洗いました。

左の写真は、収穫した里芋を畑で貯蔵している様子です。畑に穴を掘り、わらで囲んだ中に芋を入れておきました。冬の間の土の中は、野菜を貯蔵するのに適度な温度で保たれていました。翌年植えるための種芋もあわせて貯蔵しました。